



赤が映える島の人気者

利尻山の麓、鴛泊登山道の入口周辺の森に、天然記念物のクマゲラがいました。クマゲラは日本最大のキツツキの仲間で、来島する野鳥ファンの間でも大変人気があります。島内の森林を巡視中に時折その姿を見かけますが、この日は幸運にも10羽ほどのクマゲラが確認できました。来たる登山シーズン、鮮やかな赤い頭の人気者を森の中で探してみてください。

撮影地：利尻北麓野営場周辺（利尻富士町）

利尻島

幸せの青い鳥が振り返る

礼文島での巡視中、惹きこまれるような瑠璃色の羽を持つ美しい鳥に出会いました。この鳥はオオルリという夏鳥で、最北の礼文島にもやってきます。オオルリは羽の色だけでなく、さえずりも美しいことから、ウグイスやコマドリと並び日本三鳴鳥にも名を連ねています。カメラを手にその姿を撮影していると、ふとこちらを振り向いて、可愛い顔を見せてくれました。

撮影地：礼文島南部（礼文町）

礼文島



空を染める野鳥の羽ばたき

サロベツ湿原で最大のパンケ沼はアイヌ語で“下にある沼”を意味しますが、その北側に“上にある沼”を意味するペンケ沼があります。様々な渡り鳥の中継地であるペンケ沼ですが、ここへ通じる道は無く、人の立ち入りが難しいため、ここはまさに野鳥の楽園となっています。漂着ごみの清掃のため、許可を得て1年ぶりにペンケ沼を訪れたこの日、水面から一斉に飛び立つマガンの群れが、春の空を染めていました。

撮影地：ペンケ沼（豊富町・幌延町）

サロベツ



北海道地方環境事務所では北海道の国立公園などで、活躍するアクティブレンジャーの活動を紹介する「アクティブレンジャー日記」も配信しています。左のQRコードからご覧ください。



「国立公園たより」とは、日本最北の国立公園利尻礼文サロベツ国立公園で働く環境省のスタッフが季節ごとのとっておきを皆様にお届けする広報誌です。

※バックナンバーは左のQRコードからご覧になれます。

発行：環境省稚内自然保護官事務所